



東京・横浜からの
アクセスもよい
弘明寺駅前



2019年8月に新築移転。待合スペースもゆとりとし、患者もストレスなく待つことができる。エレベーターがあり、受付・診察・検査・カウンセリングの各スペースが一つのフロアに収まっているため、高齢者にも優しい。1階には調剤薬局も開業している。

医療法人社団ファミリーメディカル 横浜弘明寺呼吸器内科・内科クリニック

- 募集科目/内 ●給与/年収1,800万円〜(税込) ※非常勤(交通費込み):1日9万円〜、半日4.5万円 ※固定残業代は給与に含まない。試用期間なし ●業務内容/完全予約制での内科外来 ※医療クラークによる電子カルテ入力等サポートあり ●経歴/卒後4年以上 ●勤務日数/週5日 ●当直/なし ●勤務時間/8:45〜18:45 ●休日/シフト制、年末年始、夏期休暇 ●待遇/社会保険完備、自動車通勤可 ●勤務地/神奈川県横浜市南区六ツ川1-81 FHCビル2階 ●交通/京浜急行本線「弘明寺駅」から徒歩5分

○応募・問い合わせ/直接お気軽にご連絡ください。
〒232-0066 神奈川県横浜市南区六ツ川1-81 FHCビル2階

E-mail ▶ clinic@kamimutsukawa.com

HP ▶ <https://www.kamimutsukawa.com/>

TEL ▶ 045-306-8026 [医師採用担当]

質問のみ・見学等も随時歓迎

当院WEBサイトで、院長のテレビ出演動画を
ご覧いただくことができます。



医療法人社団ファミリーメディカル 横浜弘明寺呼吸器内科・ 内科クリニック

(旧・上六ツ川内科クリニック)

駅前への新築移転で診療規模を拡充 高い専門性で難治性咳嗽・喘息治療を実施

難治性咳嗽の診断・治療の領域で、基幹病院に劣らぬ診療を提供する横浜弘明寺呼吸器内科・内科クリニック。本年8月18日に名称を変更し、新築移転。さらなる診療環境の拡充を果たしている。同院の理事長・三島渉氏に、目指す医療と、新たな医師の活躍するフィールドについて聞いた。

高度なレベルの医療を地域で提供 病気に悩む患者の受け皿となる

横浜弘明寺呼吸器内科・内科クリニックは難治性咳嗽の診断と治療に特化した、せきの外来。として全国的に知られるクリニックである。毎月来院する喘息患者数は1,500名を超え、新規難治性咳嗽患者は200名を超える。さらに増患傾向にあることから、より患者のニーズに応えていく環境づくりを目指し、「上六ツ川内科クリニック」から現名称に変更、弘明寺駅徒歩3分という好立地に新築移転。通院のアクセスが良好になるとともに、診療スペースも旧クリニックの約2倍となり、より充実した医療提供が可能になった。

「喘息やCOPDに代表される慢性呼吸器疾患は、早い段階で適切な診断を下し、それに即した投薬等の治療を行えば、重症化を抑制することが可能です。しかし基幹病院に来院する患者さんの多くは既に重症化されています。軽症のうちに気軽に受診できるクリニックで高度な診療が



理事長 三島 渉氏

○1997年/横浜市立大学医学部卒業、横浜市立大学附属病院研修医 ○1999年/三浦市立病院内科 ○2001年/横浜市立大学大学院病態免疫制御内科学 ○2005年/横浜船員保険病院(現・横浜保土ヶ谷中央病院)内科・呼吸器科 ○2007年/上六ツ川内科クリニック開院
■日本呼吸器学会専門医、日本アレルギー学会専門医、日本結核学会専門医、医学博士

できることが、非常に重要であると考え、病気で困っている患者さんの受け皿をつくりたいと、2007年にクリニックを立ち上げました」と三島氏は語る。同クリニックでは新築移転する以前より、呼吸器NO測定、モストグラフ、スパイロメーター等の慢性咳嗽の診断に必要な機器を導入。CTやMRIに関しても近隣の病院と連携し、直接検査予約が取れる体制をとり、基幹病院の呼吸器内科専門外来と遜色のない診療環境を整えている。

スタッフのサポートも充実 診療に専念し、スキルを磨く

同クリニックでは、複数の臨床検査技師や放射線技師、さらに管理栄養士や医療クラーク等専門性の高いスタッフを始め、トータル約40名のスタッフが在籍。電子カルテの導入、患者教育のフォローに至るまで、医師をサポートしている。これはクリニックとしては非常に充実した体制だ。「それぞれの専門家の目を通して、患者

が非常に充実しており、診療以外の業務に時間を取られることはなく、残業も少ないですね。現在、私は3歳の子供がいますが、子育てにもしっかりと関わることができるようになりました」

生活習慣からのアプローチ等 新たな取り組みへも共に挑戦を

新築移転により、理事長の三島氏は、それまでの2診体制から4診体制への移行、さらに将来的にはサテライト・クリニックの展開を視野に入れている。そのためにも同氏の理念に共感する常勤医を募り、体制を充実させたいと語る。

「これまでの豊富な実績の中で培ってきた。せきに関する高い専門性を学んでいただきたい。病院勤務の場合、入院患者に関するカンファレンス等は行いますが、外来患者に関するカンファレンスは行わない

さんに関わるチーム医療を重視しました。さらに分業化することで待ち時間等の無駄をなくし、患者さんがストレスなく診療を受けられる環境を実現しています。それは同時に、医師が診療に専念でき、一人ひとりの患者さんと向き合える時間を増やすことでもあります」

スタッフに関しては、専門性の高い同クリニックの医療への対応はもちろん、医療人・社会人としての基本的な考え方の教育を通して、主体性、チームワークを育成。これには外部の専門カリキュラムも導入している。「スタッフの意識、そしてスキルは非常に高く、医師にとっては働きやすい環境です。その中で、多くの症例を重ねながら、専門性の高い診療のスキルを、磨いていくことが可能となっています」

社会の高齢化が進む中、COPDの患者数や、都会型アレルギー疾患の罹患率も増加傾向にある。クリニックとしては全国有数の症例数と、先進の診療に取り組みめる環境は、今後の医療ニーズに応える力量を身に付ける、好適な場となっている。

クリニックが目指す理念に共感 家族と過ごす時間も増える

「勤務医時代は病棟管理および救急対応を行っていましたが、多くは重症化しており、早期に対応できれば、もっと患者さんの負担を軽減できるのに、というジレンマに陥っていました。何かできないか、と考えていた折に、当クリニックを知り、三島理事長の持つ理念に共感したことが、入

ことが普通です。ここでは外来の患者さんに関して、スタッフも含めカンファレンスを行い、治療方針を決めていきますので、外来における診療スキルも磨けます」

現在、より大きな視点に立ち、生活習慣からのアプローチも積極的に取り入れているという三島氏。例えば糖尿病等の場合と違い呼吸器内科の分野では、タバコに関する指導はしても、食事に関する指導はあまり行われてこなかった。しかし食事に気をつけることで、アレルギー性疾患の予防や重症化の抑制に繋がると同氏は語る。

「管理栄養士も採用し、丁寧な食事指導も行っています。患者にとって身近なクリニックでありながら、充実した体制を整えているからこそ、こうした取り組みも可能です。病気で困っている患者さんのために何が出来るか、常に考え、新しいことへの挑戦も厭わない医師に参加して欲しいと考えています」